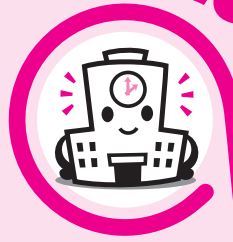


つながる



学校と家庭の学び

個人別生活習慣改善で 目指す家庭学習の習慣化

岐阜県中津川市立付知南小学校

中津川市立付知南小学校は、年3回実施する家庭学習調査の結果から一人ひとりの生活習慣を把握し、家庭学習指導に生かしている。また、子どもがこれまでの調査を振り返り、次の目標を決めることで、目標に向かって努力する気持ちが生まれ、生活習慣が改善している。

学習内容の定着を目指し 家庭学習指導に取り組み

中津川市立付知南小学校は、岐阜県南東部に位置する単学級の学校だ。子どもは人懐こく素直で友達との仲も良いが、宿題の提出率が低い学年もあり、前学年の学習内容が定着していない子どもも見られた。そこで2009年度から、家庭と連携した学習習慣定着に取り組んでいる。可児正充校長は、このねらいを次のように話す。

「授業で学んだ内容を身に付ける

には、家庭での学習が鍵を握ります。教師の目が届きにくい家庭で子どもが学びに向かうには、保護者の協力が不可欠だと考えています」

中津川市教育委員会も「学力アッププログラム」として生活・学習習慣づくりを力を入れている。11年度には、市内の10の幼稚園、23の保育園、19の小学校、12の中学校に通う全ての子どもと保護者に、生活・学習習慣づくりの仕方を示したシートを配布した。ただし、取り組みの主体はあくまでも学校だと教育研修所指導主事の大脇雄一先生は強調する。

子どもの生活を把握し 学習習慣の定着に生かす

「中津川市として生活習慣・学習習慣づくりを重視し、保護者と連携して進めようと考えました。具体的な活動は、子どもの実態に応じて各校で工夫してほしいと思います」

家庭学習の定着には生活習慣の改善が不可欠として、同校は年3回、子どもの家庭での過ごし方を調査している。5月、12月、1月の第2週目に、家庭での学習時間と内容、読書の時間、テレビを見た時間、ゲー

Mをした時間の4項目を、毎日子どもが調査用紙に記入する。調査では、毎回子ども自身に目標を立てさせ、主体性を持って自分の生活を振り返れるようにしている。調査への保護者の理解を得るため、毎年4月のPTA総会では、可児校長が家庭学習と生活習慣の関係を説明している。

教務主任の志津耕基先生は、調査のねらいを次のように話す。

「家庭にはテレビやゲームなどがあり、これらへの過度な傾倒は学習を阻害する要因となります。教師がただ『勉強しなさい』と伝えるだけ

図1 実際のデータ(4年生から抜粋)

個人平均(月曜日～日曜日)				
氏名	家庭学習	読書	テレビ	ゲーム
A	81.9	0	15.7	4.3
B	42.1	17.7	61.4	10.9
C	79.3	0	81.4	30.0
D	15.7	0.7	47.9	37.1
E	20.0	7.4	30.0	2.9
F	47.9	10.7	17.1	0.7
G	34.9	0.7	45.7	0
H	47.9	11.4	90.0	12.9

課題がある項目は、セルの色が変わる。家庭学習は、学校が設けた目安の時間(1・2年生が20分、3・4年生が40分、5・6年生が60分)を下回った時、■になる。読書時間は、ゼロの場合が■、5分未満が■になる。テレビの時間は、90分以上が■、60分以上が■になる。ゲームの時間は、20分以上が■、10分以上が■になる

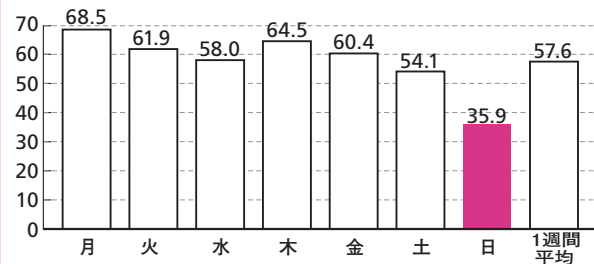
棒グラフは、家庭学習、読書、テレビ、ゲームの項目ごとに作られる。図中の日曜日は学年の目安を下回っているため、■で示されている。項目全てを表示したレーダーチャートは、家庭学習の時間がテレビやゲームの時間より多くなり、全体を包囲する形になることが理想だ

*表、グラフ、レーダーチャートいずれも、同校の資料を基に編集部で作成
 実物は■が赤、■が黄色で示される。また実物は、レーダーチャート上で全ての項目の時間が示されるが、誌面では家庭学習のみを示している

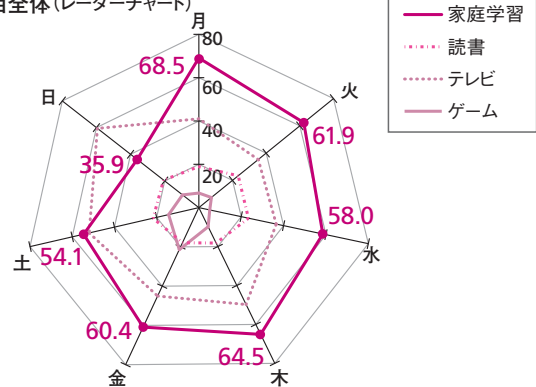
4年生全体の曜日ごとの平均時間

単位:分

家庭学習(棒グラフ)



4項目全体(レーダーチャート)



岐阜県中津川市立付知南小学校

◎1984(昭和59)年、付知町立南小学校と東小学校を統合して開校。学校教育目標は「考える子 助け合う子 きたえる子」。教師の指導改善と並行して、子どもの家庭学習習慣化に取り組んでいる。

校長 可児正充先生
 児童数 176人
 学級数 8学級(うち特別支援学級2)
 〒508-0351
 岐阜県中津川市付知町10890
 TEL 0573-82-3073
 URL <http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/kyouiku/tsuminamishou/>



中津川市立付知南小学校校長

可児正充

Kani Masamichi

「子ども、保護者、教師それぞれが願いを持ち、実現しようとする学校をつくりたい」



中津川市立付知南小学校

志津耕基

Shizu Koki

教務主任。「夢を持ち、諦めずに努力し続ける子どもを育てたい」



中津川市教育委員会事務局
教育研修所指導主事

大脇雄一

Owaki Yuichi

「自ら積極的に学び取ろうとする意欲を育てたい」

でなく、子どもは帰宅してから何をしているのか、宿題にどれくらい時間をかけているのかなどを調べ、データを基に、家庭学習に向かう環境を整えていこうと考えました」

テレビとゲームの時間を減らして睡眠と食事の時間を確保し、家庭学習と読書を習慣化させることで、豊かな学校生活を目指す試みだ。

回収した調査用紙の内容は、子どもの実態を把握するために担当が表計算ソフトに入力する。各項目の1週間の合計時間、1日の平均時間などが全学年、学年別だけでなく、個人別にも自動で算出できるよう志津先生が作成した(図1)。

「全学年・学年別の平均データから、全体の傾向が分かります。ただ、

平均を見るばかりでは、例えばゲーム時間がどの子どもも多いのか、特定の子どもだけが多いのかは分かりません。教師がゲームをし過ぎないように全員に呼び掛けても、ゲームをほとんどしない子どもにはピンとこないでしょう。一人ひとりの生活習慣に合わせて必要な指導をするためには、個別データの活用が必要なのです」(志津先生)

担任は昼休みや放課後などに、生活習慣に課題がある子どもにも、調査結果を基に、「ゲームの時間をもう少し減らそう」などと改善点を具体的に示している。個別データは担任が印刷し、調査用紙と共に子どもへ返す。子どもは、調査用紙に自分のデータを貼って保管する(P.30図2)。

図2 子どもに返却された調査用紙

がんばってめあてを達成しよう

家庭学習時間などの目安
 低学年(20分以上)
 中学年(40分以上)
 高学年(60分以上)
 中学生(学年11時間)

がんばるめあて
 べんぎょうを40分より多くべんぎょうする。
 テレビのべんぎょうを減らす。

毎日読書の時間をつくらう
 テレビ最大90分まで!
 ゲームは約束を決めて!

一年前の1学期 今年の1学期 多回の結果

学年 姓名 学校に通って行く日 10月21日(金)

かきかた
 ☆時間は、(分)でかきまわす。(例えば、1時間25分→85分)
 ☆どんな勉強をしたか、内容も書きまわす。(例えば、計算ドリル・漢字練習...)
 ☆数字の人は、お家の方といっしょにかきまわす。

	10/14(金)	10/15(土)	10/16(日)	10/17(月)	10/18(火)	10/19(水)	10/20(木)
勉強時間	45分	40分	45分	45分	40分	40分	60分
読書の時間	30分	30分	30分	30分	30分	30分	30分
テレビを見た時間	30分	30分	120分	60分	10分	15分	60分
ゲームをした時間	0分	0分	0分	0分	0分	0分	0分

自分のせいじかつをふりかえって
 テレビのべんぎょうを減らす。ゲームのべんぎょうを減らす。
 べんぎょうを40分以上する。読書のべんぎょうを30分以上する。

お家の方の感想
 がんばってやりました。
 べんぎょうを減らす。読書のべんぎょうを増やす。

*同校の資料から一部抜粋して掲載

調査用紙の構成も工夫している。子どもに書かせる「がんばるめあて」の左横に「家庭学習時間などの目安」を入れて、子どもが具体的な目標を立てやすくした。更に、子どもが自分の生活の変化を実感できるように、今回の調査結果を1年前の結果や前回の結果と並べて貼るようにした。「今回の結果を今までのものと比較できるため、子どもたちのやる気も増しているようです」(志津先生)

調査用紙には、家庭で生活を振り返れるように保護者の感想欄も設け

達成感を抱く子どもの姿が保護者の意識を変える

調査を始めてから、家庭学習や読

た。また、調査の報告に特化した学年だよりも発行。学年別平均データを紹介します。子どもの変化をこまめに伝えたり、「子どもが読書に興味を抱く第一歩になるので、家庭での読み聞かせをしてみたいかがでしょうか」などの提案をし、子どもの生活習慣について保護者にも一緒に考えてもらえるよう促している。

書の時間が増え、テレビやゲームの時間が減った子どもが目立つようになった。更に、どの学年の調査用紙にも、「前回より長く家で勉強できてうれしい」というコメントが増えている。

「毎回の調査では、自分で決めた目標を達成しようと頑張る子どもが増え、生活習慣に対する意識の高まりを感じます。努力する喜びを得ているのだと思います」(志津先生)

保護者の感想からも、調査を好意的に受け入れることが分かる。「子どもが勉強しやすい環境をつくれるよう、私もテレビを見るのを控えようと思います」など、子どもに協力しようとする声が多い。

調査を始めた時は調査用紙が期日までに集まらず、担任が何度も提出を呼び掛けていた。しかし今では、ほぼ全員分がそろうようになった。

「子どもの変化に気付いたからこそ、保護者の意識も変わったのだと思います。保護者にとって、学校についての最大の情報源は子どもなのです。今後は、保護者が子どもの成長を目的にする機会を増やし、家庭とのつながりを更に深めていこうと思っています」(可児校長)

2~3月の進級・進学前に授業や保護者会で使える教材、冊子を無料でご提供します

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2010年度は、のべ約11,000校から約187万冊ものお申し込みをいただきました。

2011年度は、高学年の児童向けに、キャリア教育の授業に役立つ副教材や、1年間を振り返って次の学年への意欲を向上させる冊子などを無料でご提供いたします。また、保護者会でご利用いただける保護者の方向けの情報もご用意いたしました。ただ今、申し込み受付中です。詳しくは本誌同送のチラシをご覧ください(ご予約いただいていない学校にのみ同送しています)。ぜひ貴校の教育活動にお役立てください。

学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>

未来に進むちからを育むプロジェクト。
ベネッセの学び応援

申し込み締め切り

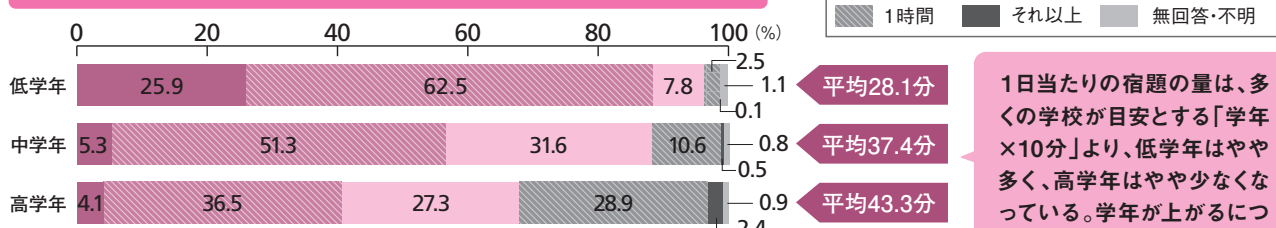
2012年

2/29(水)



低学年と高学年の宿題に掛かる時間差は15分程度。内容の多くは基礎の定着

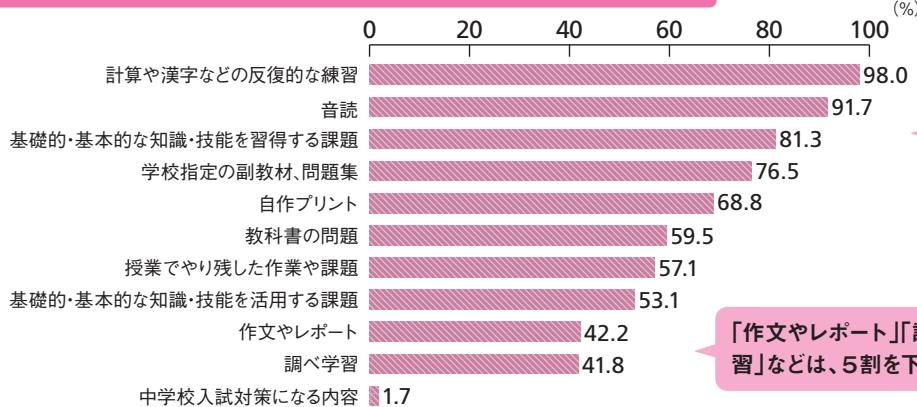
1日あたりの宿題の量(回答:学級担任をしている小学校教師)



注1) 宿題を「毎日出す」～「月に1回くらい出す」と回答した教員のみ(2,688人の97.4%)に、「あなたが出す宿題は、平均的な児童にとってほしい1日何分くらいの量になりますか」と質問。平均時間は「15分」を15分、「30分」を30分、「45分」を45分、「1時間」を60分、「それ以上」を75分に置き換えて、無回答・不明を除いて算出

1日当たりの宿題の量は、多くの学校が目安とする「学年×10分」より、低学年はやや多く、高学年はやや少なくなっている。学年が上がるにつれて、宿題以外の自主学習を推奨する割合が増えることが背景の一つと考えられる

宿題の内容(回答:学級担任をしている小学校教師)



注1) 宿題を「毎日出す」～「月に1回くらい出す」と回答した教員のみ(2,688人の97.4%)に、宿題として出している内容を質問(複数回答)。数値は、「よく出す」+「たまに出す」の割合

宿題の内容は、基礎を定着させるためのものが多い

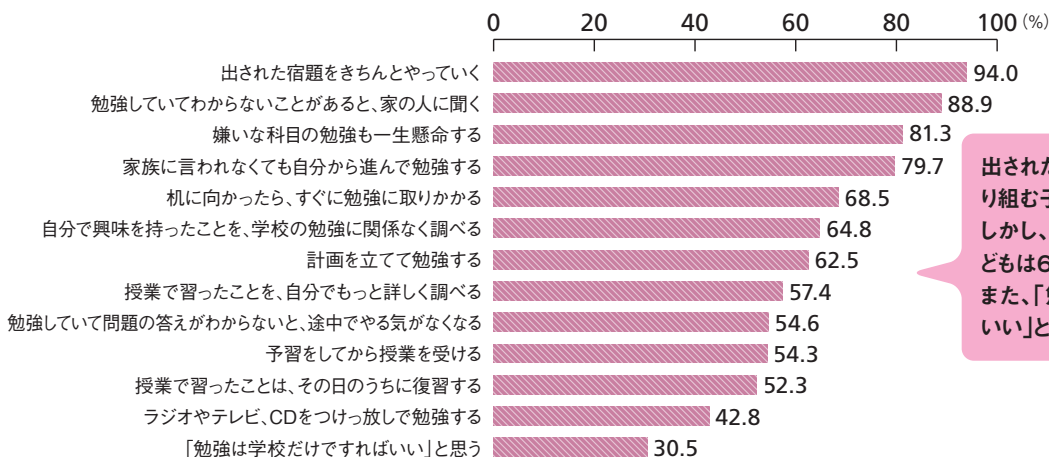
「作文やレポート」「調べ学習」などは、5割を下回る

出典: Benesse教育研究開発センター「第5回学習指導基本調査報告書 小学校・中学校版」(2011)

調査時期は、2010年8～9月、調査対象は全国の公立小学校・中学校の校長および教員(うち小学校の教員は2,688人)、調査方法は郵送法による質問紙調査

8割以上の子どもが真面目に宿題や勉強に取り組むが、計画を立てる子どもは6割

家での学習の様子(回答:小学5年生)



注1) 数値は、「あてはまる」+「まああてはまる」の割合

出された宿題や勉強にきちんと取り組む子どもが多い。しかし、計画を立てて勉強する子どもは6割程度にとどまる。また、「勉強は学校だけであればいい」と思う子どもも3割程度いる

出典: Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査報告書・国内調査 小学生版」(2008)

調査時期は、2006年6～7月、調査対象は全国3地域[大都市(東京23区内)、地方都市(四国の県庁所在地)、郡部(東北地方)]の小学5年生2,726人、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査



上記の関連データはコチラ!
<http://benesse.jp/berd/>
*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください